

ねぎ たまさたか
禰宜田政隆院長

昭和34年6月生まれの53歳。61年3月名古屋大学医学部を卒業。平成13年4月外科医長として市民病院に勤務。21年4月から25年3月まで副院長を務める。刈谷市在住。



市民病院 新院長 禰宜田政隆氏が就任

— 院長就任インタビュー —

4月1日付けの人事異動に伴い、市民病院の院長に禰宜田政隆氏が就任しました。禰宜田院長は市民病院の目標に、地域連携の近代化、医師の確保、休止診療科の再開、経営改善により黒字化に近づけるなどを掲げ、西三河南部の地域医療を支えていく決意を述べました。今回は院長就任インタビューとして、禰宜田院長に話を伺いました。

— 院長に就任して、今の気持ち —

新しく市民病院長を拝命することになり、大変光栄に思います。しかし現在、当院は多くの解決すべき問題を抱えており、決して浮かれ気分ではられない状況です。

— 市民病院の現状について、どう思いますか —

当院に限らず、中・小規模の病院、特に地方の病院にとっては厳しい時代がここ何年か続いています。また医師不足のため、当院もお産は休止状態です。救急医療にも支障を来しており、深夜の小児科の救急外来も休止させていただいています。

— 医師不足について、どう思いますか —

医師不足は深刻な問題です。現在、一部の医療界では非常に偏った医師を育成しようともしています。そのようなことは医療界にとっても、一般社会にとっても良いこととは言えないと思います。極端な専門医師は、ごく一部の特殊な施設にいれば十分であり、多くの実地臨床においては、医師個人の総合力が求められます。極端な専門性に走れば、医師はいくらいても足りません。一つの病状を訴えて受診されても、多くの病気を抱えていることはよくあり、また一医師としても非常に狭い領域の中で生きていくということは一病は診られるが人は診

られない「医師になることを促すことにもなり、つぶしもきかなくなりませう。

—どのような医師を望んでいますか

総合的な技術、また人格を有した「人を診られる」医師やスタッフを望んでいますし、養成することを心掛けています。人として自分にも他人にも恥ずかしくない医療を提供できる医療人を育て上げることがを当院は目指していきます。

—医師不足を解消するには

名古屋大学や名古屋市立大学、藤田保健衛生大学、愛知

医科大学など県内の大病院に医師の派遣をしていただけるよう、積極的に働きかけていきます。

—市民病院の救急医療についてどう思いますか

医師不足ではありますが、少ない人数で何とか頑張っています。しかし、このままでは医師が疲弊してしまいます。市民の皆さんには、ご迷惑をお掛けしますが、地域医療を守るため、病気かなと思つたらまずはお近くの「かかりつけ医」を受診してください。必要があれば、当院が連携して治療を行います。

「病を診られる」医師より「人を診られる」医師を育てたい



—市民病院の誇れるものは何がありますか

医師を招聘するための一つの重要な要素は高い医療レベルの維持です。当院では、二次医療機関として決して恥ずかしくないレベルの医療機器をそろえています。

—具体的にどのような機器がありますか

CT装置（コンピュータ断層撮影装置）やMRI装置（磁気共鳴撮影装置）、リニアック（放射線治療装置）、結石破碎装置など、医療機器は最新鋭の機器を設置しています。また、最近白血球治療のための装置やわずかな体液の流れを同定する装置を購入

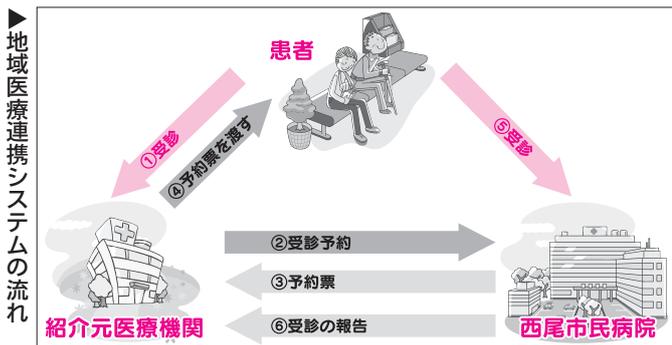


▲24年2月に更新したマルチスライスCT装置とその装置で撮影した3D画像

—市民病院をどうしていきたいですか

—最後に、市民の方へメッセージを

当面の目標は、開業の先生方と協力して地域連携を近代化し、より一層充実させていくこと、医師を確保し休止部門を再開させること、経営を改善させ少しでも黒字化に近づけること、業務の効率化を図り、働きやすく誇りを持つ職場環境を作ることなどを挙げさせていただきます。そのためにもっと多くのスタッフが必要です。



—ありがとうございます

当院は西三河南部の中核病院として、17万人の市民の健康を守るため、職員一丸となって日々頑張っています。私も院長として第1の目標である医師の確保に向けて、全力を注いでいきますが、もし皆さんの近くに当院で働きたいという医師がいましたら、ぜひご連絡ください。市民の皆さんと共に、この西三河南部の地域医療を支えていきたいと思ひます。ご協力よろしくお願ひします。